

稲作情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.4

TEL:018-860-3410

FAX:018-860-3834

目標茎数を確保したら、速やかに中干しに移行！

1 気象経過と生育状況

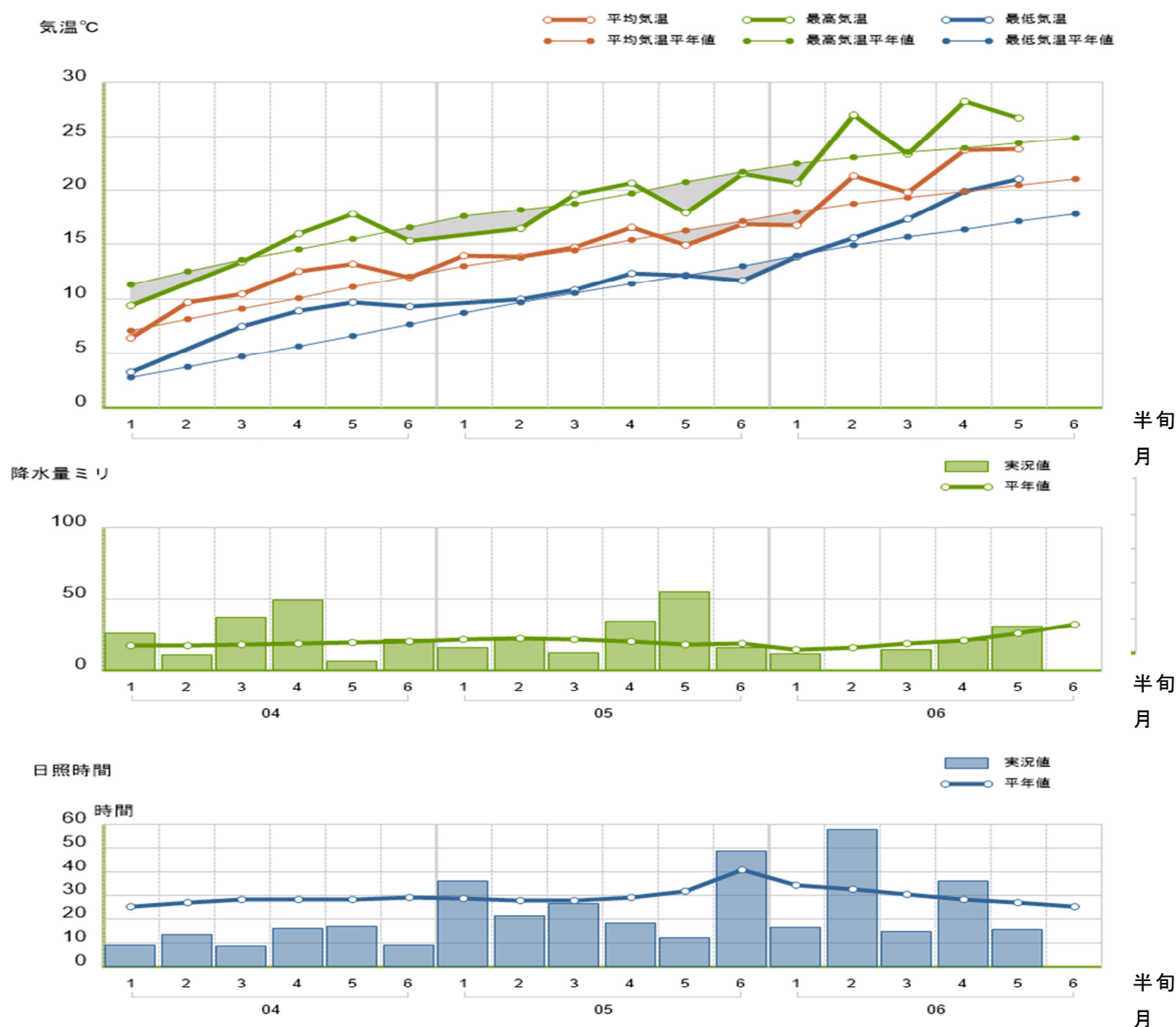


図1 気象経過と平年値（アメダス秋田、秋田県農業気象システムから引用）

〈概況〉

6月25日の定点調査結果（あきたこまち）は、草丈は42.8cm（平年比108%）、茎数は378本/m²（平年比92%）、葉数は9.2葉（平年差+0.1葉）でした。

6月2半月以降の高温の影響により、分けつの発生が促進され、茎数は平年比92%まで回復しました。次ページを参考に、浅水管理により茎数の確保に努め、目標茎数に達したほ場では速やかに中干しに移行しましょう。

表 水稻定点調査結果（6月25日調査）

	本年	比較	
		平年比・差	前年比・差
草丈	42.8cm	108%	100%
茎数	378本/m ²	92%	75%
葉数	9.2葉	+0.1葉	-0.5葉
葉色 (SPAD)	44.0	100%	101%

※ 管内定点ほ場9地点（あきたこまち）の平均値

2 今後の水管理および中干し・溝切り

- ① あきたこまち(目標収量 570kg/10a、中苗)の目標穂数は 440 本/㎡(70 株/坪植えの場合で 1 株当たり約 20 本、60 株/坪植えの場合で 1 株当たり約 23 本)です。6 月 25 日頃(8.5 葉期頃)が目標茎数(目標穂数と同じ茎数)を確保する目安時期ですが、目標茎数を確保できていないほ場が多く見られます。
- ② 目標茎数を確保していないほ場では、浅水管理で水温と地温を高め、分けつの発生を促進してください。茎数が十分に確保できない場合は中干しの開始を遅らせましょう。
- ③ 目標茎数を確保したほ場では、速やかに中干しを行い分けつの発生を抑制します。中干しの期間は、7～10 日程度を目安とし、田面に亀裂が 1～2cm 入り、足跡が付く程度とします。
- ④ 溝切りは、その後の水管理や秋作業の効率化につながるため、積極的に実施しましょう。
- ⑤ 幼穂形成期(7 月 15 日頃)に土壤水分が不足すると 1 穂粒数が減少するため、中干しは幼穂形成期前には必ず終了してください。
- ⑥ 中干し後は間断かん水を基本としますが、減数分裂期頃は低温に弱い生育ステージとなるため、今後の気象経過に注意し、低温時は深水にして保温してください。

3 病虫害防除は適切に実施

① いもち病(葉いもち)

6 月 24 日に病虫害防除所から発表された農作物病虫害発生予察情報発生予報第 3 号(7 月予報)によると、葉いもちの全般発生開始期はやや早い、発生量はやや少ないと予想されています。ほ場を巡回し、余り苗や本田での発病状況を確認しましょう。また、余り苗はいもち病の伝染源となるため、発病の有無にかかわらず、直ちに泥の中に埋めて処分してください。



写真 葉いもちの病斑

② 斑点米カメムシ類(第 2 世代)

発生予報第 3 号によると、斑点米カメムシ類(第 2 世代)の発生時期はやや早い、発生量はやや少ないと予想されています。農道・畦畔、休耕田に出穂しているイネ科雑草が多いと、斑点米カメムシ類の発生量が多くなることから、稲が出穂する 15～10 日前まで継続して除草(草刈り)を行い、イネ科雑草が出穂しない管理に努めます。なお、草刈りは可能な限り地域で一斉に行ってください。

また、水田内に雑草が多発すると、斑点米カメムシ類の主要種であるアカスジカスミカメの水田内への侵入が助長されます。そのため、水田内雑草が発生している場合は発生雑草の草種や生育程度を観察して、適切な中・後期除草剤を選択し、雑草防除を徹底してください。

4 大雨対策について

6 月 14 日に東北地方が梅雨入りしたとみられるほか、6 月 26 日に仙台管区气象台から発表された東北地方 1 か月予報によると、向こう 1 か月の降水量は平年並または少ないと予報されています。集中豪雨の発生に備え、大雨によりほ場が冠水・浸水した場合に速やかに排水されるよう、事前に排水溝や排水路の点検を行ってください。また、大雨により水路が増水している場合は、危険ですので絶対に近づかないでください。

◇次号は 7 月 7 日頃の予定です。